

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年3月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670900184
法人名	有限会社 めぐみ福祉会
事業所名	グループホーム 大口めぐみの里 1号棟
所在地	鹿児島県伊佐市大口曾木480番地 (電話) 0995-25-2323
自己評価作成日	令和4年1月28日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 家庭的な環境と地域との交流を大切にしながら、安らぎと憩いの場を提供します。
2. 個人の尊厳を失うことなく自立を手助けします。
3. 満足と生きがいを持って頂けるよう努めます。
4. 職員一人一人が認知症ケアについて日々学びの姿勢を忘れず、研修にも積極的に参加し、ケアに活かしています。
5. 毎朝朝礼で介護理念を唱和し、理念に基づいた介護に取り組んでいます。
6. 利用者様の居室、共有の場所、園内全ての空間の清掃、環境整備に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、伊佐市街地から国道447号線沿いに南へ車で10分ほどのところにあり、すぐ近くを川内川が流れ、田畑が広がる自然豊かな地域である。近くに同一法人の有料老人ホームとデイサービス事業所があり、自家製の米・卵・野菜・味噌等を使用して有料老人ホームで調理された食事がホームに運ばれ、刻み食やミキサー食にさらにひと手間加えて提供されている。

「ゆっくり、やさしく、おだやかに」その人らしく生きる力を大切にして、地域や家族と支え合いながら支援するという理念を玄関やホールに掲示して毎日唱和し、日々のケアの中で振り返りながら実践に取り組んでいる。管理者は地域との繋がりを大切にしており、現在はコロナ禍のため協力は難しくなっているが、通常は地域の行事に参加したり、敬老会・七夕・十五夜など季節の行事等で交流を図り、避難訓練では地域の方々の協力や見守り等の支援をもらい、認知症に関する相談窓口となるなど、地域との協力関係を構築している。

外出支援はコロナウイルス感染予防の中で限定的なものとなっているが、ホーム周辺の散歩・病院受診・ドライブでコスモスや紅葉の花見、自宅周辺まで出かけるなど、できるだけ利用者の希望を取り入れることができるような支援に努めている。園庭にはバラ園もあり、季節の変化を楽しんだり、ベンチに座ってお茶会をしたり、ホーム内で工夫してリフレッシュを図っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼の際に事業所独自の理念を職員で唱え、共有し実践に向けての取り組みとしている。また、玄関やホール内など見える場所に掲示している。	開設当時に職員全員で作った「ゆっくり、やさしく、おだやかに」という理念を玄関やホールに掲示し、毎日唱和している。管理者は日頃のケアの中で理念に沿ったケアが実践されているか確認しながら、必要時には声をかけて注意喚起し、意識の向上を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の清掃活動に職員が参加している。例年であれば、交流の場として施設の行事に近隣の方を招待しているが今年度は外部の方を招く行事は実施できなかった。	自治会に加入し、例年は総会等に出席したり敬老会で近所の方々に弁当を配ったりしていたが、現在はコロナウイルス感染予防のために総会は書面決裁となり、年2回の清掃活動のみ参加している。利用者はホーム周辺の散歩で住民と挨拶を交わし、野菜等の差し入れをいただき、十五夜のすすきや七夕の笹などを届けてもらうなど、地域住民との触れ合いや交流が活発であり、協力関係を築いている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	普段であれば事務所内をオープンにし、質問に応じられるようにしているが現在感染症対策のため、来園される方はほとんどいない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を開催し、市職員・利用者様のご家族など外部の方へ参加を依頼し、現状を報告させて頂いていたが本年度は当施設職員が話し合った議事録を送ることで運営推進会議を行っている。	自治会長・市職員・駐在所職員・家族代表・消防団の分団長等が出席して定期的に会議を開催していたが、現在は書面での入所者状況・職員の異動状況・行事やレクリエーション・事業所からの報告・協議事項等を記載して配布している。得られた意見・要望等は職員間で共有・検討し、次回の書面で公表して情報共有に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者と普段から連絡を取り合い、制度に関する不明なところを電話等で問い合わせている。また2か月に一度の運営推進会議として議事録を送り、現在の施設の状況をお伝えしている。	市の担当者とは、運営推進会議や電話でホームの運営や各種制度手続き等の相談や報告を行い、利用者の中には後見人制度を利用している者もあり、事業所の実情や取り組みに対する理解を得て日頃から協力関係を築いている。地域の病院・施設・歯科医院・薬局・ケアマネ等のメンバーで構成される医療連携会議にも出席して意見・情報交換を行い、サービスの向上に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング内で身体拘束に関する研修を行い、防止していくためにどういったところを注意が必要か事例を挙げ参照しながら振り返る時間を作っている。	「身体拘束排除マニュアル」を整備し、委員会を定期的に開催することとしているが、コロナ禍で難しいこともあり、月1回のミーティングでケアの振り返りや言葉遣い等の研修を行い、繰り返し話し合うことで認識を共有している。管理者は不適切な言葉に対して注意を促し、声の大きさ・口調・テンポに配慮し、帰宅願望のある利用者に対しては、散歩に付き添って安定を図るなど、利用者が安全で自由な生活が送れるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務の中で不適切だと感じたら職員同士で話し合い、管理者にも意見を貰うことで適切なケアへ繋げている。ミーティング内で虐待について研修を行い、普段のケアを見直すなどして防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月実施しているミーティング内で研修を行い成年後見制度について学ぶ時間を作っている。後見人がついていての方が入所されている為、普段の利用者様の様子を毎月のお便りや面会時にお伝えするなど支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不明な点はないか聞きながら契約を進め、グループホームとしてどこまで対応できるか説明し、理解が得られたら契約を結ぶようにしている。また入所前の見学にも応じられるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様のご家族からの問い合わせや面会時に普段の様子をお伝えするようにし、小さい事でも話しやすい場を設けている。ご家族からの不満や要望は、次のミーティングや朝礼時に職員間で共有し、反映へ繋げている。	利用者の要望等は日頃のケアを通して把握するように努めており、意思表示がうまくできない場合は「YES」「NO」の選択式質問で具体的に聞き取る工夫をしている。家族からは入居時面談・電話・利用料の支払い時等で意見を把握し、ホーム便りに利用者の写真やコメントを入れて送付しており、お互いの信頼関係を構築している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングへ管理者・施設長が参加し、利用者様やそのご家族、職員からの意見を出し話し合う場として反映へ繋げている。	管理者は日頃から職員が何でも話せるような雰囲気作りに努め、ミーティングや必要時に行われる面談等を通して職員は意見や要望を述べ、業務改善やサービスの向上に繋げている。研修等には平等に出席できるように休日手当を支給するなどして調整し、希望休の取得にも可能な限り対応して、職員の意欲が向上し、定着しやすい職場環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事前に要望を希望休として出し、その希望を勤務表作成に反映している。勤務時間が変更になった場合も、職員からの意見を聞く機会を設け、それをもとに決定された。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>以前に研修で学んだ内容を他の職員とミーティングなどの場で共有している。研修として学びたい内容を職員にも尋ね、実際にテーマを決めることもある。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナウイルス対策の影響で現在外への研修参加出来ていないが、連絡会など参加した管理者が、得られた情報を他の職員へ伝え共有している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人様にまず話しかけることから始め、コミュニケーションを図り小さなことでも要望を話しやすい関係が作れるよう努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>来園された際に積極的に会話を心掛け、小さなことでも尋ねやすい雰囲気づくりに努めている。話して頂いた内容を職員間で周知し、安心して利用して貰えるように取り組んでいる。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者様の情報や既往歴をご家族や主治医より聞き取って、そこから必要なケアは何か注意すべきところを事前に話し合い、職員間で共有してサービスへ繋げている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>生活サイクルを利用者ごとに掴み、介助方法をその方に合わせるよう心掛けている。それぞれの利用者様の経験してきたことや得意なことを会話の中で引き出し、コミュニケーションの中に活かしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来園された時には、利用者様の様子をご家族へお伝えするようにしている。感染症対策で面会が出来ない場合は手紙や電話での連絡を勧め、関係が途切れないうような働きかけを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	以前より診て頂いていたかかりつけ医を続けて利用できるように移動など手伝って支援している。ドライブに出かけた際、馴染みの場所やリクエストで出た場所をめぐり、安らぐ時間を過ごせるよう取り組んでいる。	利用者のこれまでの馴染みの人や場所については、入居時に本人や家族から聴取し、家族・友人との玄関ガラス越し面会・電話（タブレット使用も可能）・手紙の取り次ぎ・自宅までのドライブ等を支援し、利用者の馴染みに関する情報を職員間で共有して関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話などの交流している様子を見ながら、ホール内の座席の配置を考えたりその会話の中に職員も加わり、繋がりが増えるようなお手伝いをしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調の悪化で入院となったり、ほかの事業所に移った後も利用者様やそのご家族へ調子を尋ねたり、自家製のお野菜の差し入れを頂いたりと交流が続いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話など利用者様自身の言葉（希望・要望）を記録の中に残すようにしており、職員同士でそれを共有し、意向の実現へ取り組んでいる。	利用者の思いや意向は日頃の会話・表情・仕草等で把握し、本人らしく生きがいのある暮らしとなるように、家族と連携して取り組んでいる。これまでできていたことができなくなり、楽しみごとが少ない状況の中で、本人の思いに寄り添って塗り絵などの趣味活動に対する個別支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	何が好みか、どのような生活を送ってきたのか日常の会話の中で尋ね、本人様から聞き取りが難しい時はご家族やかかりつけ医にも聞かせて頂き記録に残して職員間でも周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様がどこまで自力で出来るのか、まず一度取り組む姿を見させて頂いてからお手伝いに入るようにしている。その日の調子を見ながらどこで過ごしたいか会話し決めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	これまでの交流の中から本人の希望や要望を読み取り、問題点などがあればその都度職員間で話し合ったり、毎月のミーティングに取り上げ、反映へ繋げている。	本人や家族の思い・意向等を把握し、主治医をはじめとする多職種で話し合い、年1回は計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎に実施し、主治医からは往診時に指示・意見をもらって更新時・退院時・状態の変化時等には計画を見直し、現状に即した計画となるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録として食事の摂取量や排泄に関するものを残している。本人様の言葉や行動も共有できるように記入し、個人の記録からケアプラン作成や評価を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当日予定になくても利用者様の状態に合わせて職員が病院受診に同行したり、「～を見に行きたい」などのリクエストに応じて出かけたりと動ける体制をとっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの感染対策のためボランティアによる慰問は現在受けていない。利用者様それぞれに馴染みがある場所へ伊佐市内をドライブとして出かけた、公園や神社に向かう行事を計画・実行している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけとしてどちらを選ぶか利用者様本人やそのご家族の意思を確認し決めるようにしている。今まで診て頂いている医師にできる限り継続して利用できるように支援している。	協力医療機関を主治医としている利用者は1名で、他の利用者は元々のかかりつけ医を受診したり、月1～2回往診を受けている。往診前には主治医へ報告するリストを作成し、受診結果や指示を記載して職員間で共有し、家族にも報告して適切な受診の支援に努めている。ホーム内には准看護師資格保有者が数名いる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>普段との差異を感じたら、看護師へ伝えるようにしており必要であれば病院受診へ向かうなど動けるような体制をとっている。日々のバイタル値など記録に残し、通常値を知ることで体調の異変にすぐ気づけるように取り組んでいる。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>体調の悪化で入院が決まったら、すぐに普段から接している職員がその方の身体状況・既往歴・緊急時の連絡先などまとめ、担当の看護師へお伝えすることで不安なく治療を受けられるよう配慮している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>施設への入所の際に必ず緊急時の対応や見取りについて説明を行っており、本人様やそのご家族より希望を聞き文書に残すようにしている。それぞれの利用者様・ご家族の希望は職員間で周知されており、意向が実現されるように支援している。</p>	<p>「グループホームにおける看取りの指針」「急変時対応希望書」等を入居時に利用者及び家族に説明し、食事が取れなくなるギリギリまでホームで介護するが、医療行為はできないことを伝えている。重度化についての指針等は整備していないので、今後職員間で検討していきたいと考えている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応マニュアルを作成しており、日勤帯・夜勤帯それぞれの勤務帯で動けるようにしている。またマニュアルを電話近くに配置して対応がスムーズになるよう配慮されている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>職員の連絡先をリスト化しており、災害時などの緊急の際はすぐ人員を招集できるように体制を整えている。実際に避難先へ移動する避難訓練を年に2回実施しており、危険なところはないかそのたびに確認している。</p>	<p>「水害・土砂災害対応マニュアル」を整備し、年2回、昼夜想定避難訓練をできるだけ消防署の立ち会いのもとに実施している。今年度は自動通報装置の業者が参加した。例年は地域住民の協力や見守り等の支援をもらっているが、現在はコロナ禍のため協力を得られていない。備蓄は食品を約3日分、2ユニット合同で準備し、懐中電灯・カセットコンロ・紙皿・紙コップ等も用意している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何か聞き取る際は、本人様の近くか他の方と離れたところで話しかけるように配慮している。介助に入る前に今から何をするのか説明し、理解や納得が貰えるようにしている。	「個人情報保護マニュアル」に基づき、入居時に利用者及び家族に説明し、同意を得ている。職員は年1回研修を実施し、言葉遣いは敬語を用いて利用者には下の名前に「さん」をつけて呼ぶなど、不適切な言葉を使わないケアに努めている。個人の記録物の管理・保管にも十分配慮し、排泄支援では利用者の気持ちに合わせた声掛けや対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に合わせた声量・話し方で接するよう配慮し、ジェスチャーも必要であれば加え伝えるようにしており、理解や判断に時間がかかっても意思を表現できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の予定は大まかに決めてあるが、説明の際に気分や体調に合わせて実施するタイミングを変えたり中止したりと対応している。今から何を行うのか必ず説明し気持ちを尋ねている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	居室に洗面台が備え付けてあり鏡の前で身だしなみが整えられる。化粧品やクリームなどそこで使用され、不足分は職員が代行して買い足し、継続していけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の嚥下状態に合わせて食事形態を変えそれぞれの方が美味しく食べられるよう努めている。メニューによって好みでない時は代替えを用意し、もし残したときは理由を尋ね今後の食事の提供に反映させている。	利用者の嗜好・食事形態・食事制限等について入居時に聴取し、有料老人ホームで調理されてくる食事をホームで刻み食やミキサー食に形態を工夫したりつぎ分けて提供している。利用者はテーブル拭きやおしぼりたたみを行い、行事食・誕生会・おやつ作りなどはホームで用意して食への楽しみに繋げられるような支援に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病歴やアレルギーを配慮し、担当職員が調理している。それぞれの好みも伝え、代替えを用意して貰っている。水分の摂取量が少ない方は、飲みやすい物を個人で用意し、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアへお誘いしている。自身では難しい方は道具を準備し、ハミガキをお手伝いしたりとそれぞれの利用者様に合わせた対応を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレのタイミングや排泄量を個別に記録し、時間を見て声かけ・誘導を実施している。日中は紙・布パンツの使用を促し、オムツの使用は基本夜間だけにしてトイレでの排泄を続けていけるよう働きかけている。	運動や散歩へと誘いながらさりげなくトイレに誘導するなど、利用者の気持ちやプライバシーに配慮し、個々の排泄パターンはチェック表を活用して、日中はなるべくトイレでの排泄を支援している。便秘の予防には牛乳・ヤクルト・水分等の摂取や毎日の散歩等に配慮し、できるだけ薬に頼らない支援を目指し、介護計画にも反映させて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食後のトイレや水分補給を促したり、希望された方はヤクルトを摂り排泄へ繋げている。排便の有無も記録に残し主治医へ往診、受診の際にお伝えしており、処方があれば適切な量の下剤を服用して頂いている13		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	事前に入浴する日を決めてあるが、本人様の希望や体調に合わせて日を変えたり、清拭に変更したりと利用者様自身が納得して入浴できるように努めている。	各ユニット毎に週2回、午前中に個浴で実施しており、殆どの利用者が湯船に浸ることができる。利用者の体調や希望に沿ってシャワー浴・清拭・足浴・手浴を柔軟に対応している。シャンプー等は共用で、入浴剤も使用し、入浴後は保湿剤やワセリンを塗布してポカリスエット・牛乳等の水分補給も支援している。入浴をためらう利用者には、日時・職員等を変更したり、トイレや散歩のついでに誘うなど、工夫して利用者の意欲を大切にして支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休む際には、それぞれの好みに合わせ暗くしたり温めたりと気持ちよく眠りに入れるように配慮している。また寝具を整え、いつでも休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬について利用者様ごとにまとめファイルを作成している。それをいつでも参照できるようにしており、本人様の体調によっては医師に相談し、量の調整を行うなど対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔好んでしていたことや趣味をレクリエーションの中で行うようにしたり、洗濯物を干したり畳んだり家事を手伝って頂いたり自信を持って取り組めることはないか働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策のため全てを叶えることは出来ていないが、リクエストされた場所へ出かけたり、花見や紅葉狩りなど季節に合わせた外出を支援している。日常的に気分転換として職員が運転してドライブを実施している。	コロナウイルス感染予防のため、ホーム周辺の散歩・病院受診・ドライブでの花見など、限定的な外出支援となっているが、できるだけ利用者の希望を取り入れることができるような支援に努めている。園庭にはバラ園もあり、季節の変化を楽しんだり、ベンチに座ってお茶会をしたり、ホーム内で工夫してリフレッシュを図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持っている利用者様もおり手元に持つことで安心して暮らせるよう配慮している。また預り金として事務所管理のお金を使い、本人様やご家族から頼まれた買い物を代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	暑中見舞いや年賀状など季節の便りを出せるように支援しており、ご家族から贈り物が届いた時は電話で無事に届いたと伝え、利用者様本人の声を聴かせるように働きかけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時期に合わせて利用者様と掲示物を作成し、廊下へ飾り季節をを少しでも感じて頂けるように取り組んでいる。また、座席は会話がしやすいように配置し、過ごしている様子から関係が良い相手と過ごせるように席替えも行っている。	広々とした廊下には利用者の作品や季節に合わせて飾りが掲示され、明るいホールにはテーブル・テレビ・カレンダー・時計・生け花・観葉植物等があり、コロナウイルス対策用の空気清浄機が設置され、1時間に5分間ずつ2回換気を行い、空調・衛生管理の徹底を図っている。キッチン是对面式で、利用者職員は会話しながらゆっくりとくつろげる環境となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居室内に椅子を、廊下や玄関にソファを配置しており、屋外・室内の様子を眺めたり、休憩したりする場としている。また普段の様子を見てホール内でテーブルにどのような配置で座って頂くか決めている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使っていた寝具や衣類、飾りを持ち込んで貰い、自身の居室を居心地の良い場所として過ごして頂けるように工夫している。ご家族の写真や届いたお便りを壁に飾っている。</p>	<p>全室フローリングの洋室で、電動ベッド・ダンス・エアコンが備えられ、1号棟には洗面台が設置されている。利用者は馴染みのテーブル・いす・ハンガーラック・テレビ・ラジオ・写真・時計・遺影等を持ち込み、家庭同様に憩える暮らしとなるように支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下にトイレの位置を伝える張り紙や扉自体に表記し分かりやすくしている。室内には大きな段差はなく、廊下やトイレに手すりを設置、トイレには可動式のタイプも備え付けてあるため利用者様ごとに掴む位置を変えられるようになっている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない